

# 第1回「今後の区立図書館のサービス・配置のあり方検討会」の概要

## 1 日時・会場

### (1) 日時

令和4年(2022年)9月28日(水)18時30分～20時30分

### (2) 会場

「みらいステップなかの」10階教育センター研修室1001

## 2 出席者(敬称略)

コーディネーター：野口 武悟 庭井 史絵

委員：佐藤 清一郎 藤井 美江子 松本 克二 高橋 博行 佐崎 さゆり  
奥村 満智子 松下 智子 田中 和喜 鈴木 辰也 注連澤 文  
柴田 健剛

傍聴者 5名

事務局：鈴木 正実(中央図書館)  
濱口 求(子ども・教育政策課長)他2名

## 3 会議概要

### (1) 開会のあいさつ

お忙しい中、「今後の区立図書館のサービス・あり方検討会」の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。様々な経験や知見を持つ方々にお集まりいただき大変心強く感じております。皆様からいろいろなご意見、ご提案をいただき、今後の中野区立図書館のサービス、事業に反映していきたいと考えます。よろしく願いいたします。

### (2) 自己紹介(委員名簿参照)

各委員から自己紹介

### (3) 検討会の進め方

#### ① 検討テーマ

- ア 今後の図書館サービス展開の方向性
- イ それを支える施設配置の条件
- ウ 地域開放型学校図書館の検証とあり方
- エ 電子書籍の動向と導入条件

#### ② 各回議題(予定)

- 第1回 今後の図書館サービスの方向性と施設配置
- 第2回 今後の図書館サービスの方向性と施設配置
- 第3回 地域開放型学校図書館の検証とあり方  
電子書籍の動向と導入条件
- 第4回 まとめの検討

#### ③ 今後のスケジュール

- 令和4年  
9月～12月 検討会(第1回～第4回)

令和 5 年	
4 月～5 月	区民意見交換会
6 月～7 月	パブリック・コメント手続
9 月	計画決定

#### (4) 資料説明 (資料 1 参照)

- ・ 中野区立図書館の現状
  - ⇒ 7 館 3 分室のプロフィール、20 年間の所蔵・貸出冊数等、事業の推移、レファレンスサービス・障害者サービスの現状、最近の出来事)。
- ・ 23 区立図書館との比較
  - ⇒ 23 区図書館のプロフィール (ウェブサイト参照)、蔵書冊数比較 (中位)、貸出冊数比較 (一般：中位、児童：下位)、図書館数比較 (館数比：中位、人口比：下位)。

### 5 質疑・意見交換

#### (1) 質疑

- ◆ 図書資料購入費の年間経費は？
  - ⇒ ここ数年は 7,000 万円弱であるが、乳幼児向け図書充実事業として、200 万円の増額 (令和 2 年度～4 年度) を実施している。  
また、令和 3 年度については、中野東図書館新規開設分として、1 億 7,000 万円を計上した。
- ◇ 23 区で比較した場合の予算規模は？
  - ⇒ 区立図書館、学校図書館ともに、最下位級であり、両者ともに充実を目指している。

#### (2) 意見交換

- ◆ 本日は、「これからの図書館」に対する委員の考えを聞きたい。それぞれの立場の中、今の図書館に感じていること、これからの図書館に思うことを率直に発言してほしい。  
また、電子書籍、ICT の活用等についてどう考えるかについても、考えを聞きたい。
- ◇ 中野東図書館は閲覧席が多い、児童館の閉館、U18 の廃止等の中、中学生・高校生の居場所として図書館は有効であると考え。この狭い場所にこれだけの施設をよくつくったなという感想。  
中央図書館は閲覧席が十分ではないので、改修の際には、中学生・高校生等がミーティング等もでき、楽しいと思える場としてほしい。  
また、学校図書館との連携や週 1 回の区立図書館蔵書の配送便があることには驚いた。  
図書館配置については、面積比で 10 位、人口比で 17 位とのことだが、順位の上昇のために学校内に分室を作るとするのは本末転倒だと思う。  
最後に、図書資料購入計経費は、残念の一言。
- ◆ 美鳩ライブラリーについては、自分だけではなく、日曜日に近隣の親子も利用する。  
また、近くに出来たことにより返却が楽になり、借りやすくなったなどの声もあり、地域の人の流れが変わったという印象で、非常に有益な施設だと感じている。地域に住んでいても普段は学校に行くことはあまり無いが、地域の交流の場にもなっている。  
一つ質問があるが、美鳩ライブラリーでは、寄贈は受け付けていないのか。最初は受け入れてもらったが、その後は断られている。

- ⇒ 寄贈は受け入れている。各ライブラリーは小さいので（蔵書規模：児童 1,000 冊、一般 1,000 冊）、当該館に配架できない場合があり、その場合は他館で受け入れる形になる。ライブラリーの対応については、注意し改める。
- ◆ 電子書籍が広まることは、読書の手段が多様化するという点で望ましい。視覚障害者だけではなく、高齢者にとっても紙の書籍の活字はつらいものがあると聞く。中野区報なども読めないという声もあり、音訳は電子書籍には今後とも期待している。
- ◇ 母親は本が好きで高齢になっても「頭は元気」だった。高齢者の読書は健康の点からも重要だが、目が悪くなり、小さい活字がつかなくなる。大活字本もあるが、高齢者の読書という点では、読みやすさということも大切である。  
また、図書館の魅力は、蔵書の多さや利用者数が評価ポイントとなるが、複合施設における魅力もある。中野東図書館についても若い人は様々に活用している。読書に親しむイベント、本の紹介、映像 DVD（映画、観光地の紹介）などにも配慮してもらおうと、高齢者の集会で利用がしやすくなる。
- ◆ 小学生が一人でも行きやすい環境を作ってほしい。図書館は静寂なイメージがあるが、BGM や館員の声かけなど、子どもだけで行きやすい雰囲気づくりが大切だと思う。  
自分の子どもも、勉強しやすいということで、中野東図書館を使っており、このような施設を増やすとともに、使い勝手の向上も図ってほしい。  
また、デジタル教科書の導入も教育委員会に要望しているが、その辺も踏まえ、学校と図書館の連携が図られることが望ましい。  
⇒ 小さい子どもが声を出すとたしなめられることは全国的な課題。  
⇒ 中学校の学校図書館では、時間での制限、試験前は静粛になどの取扱はあった。  
⇒ 長野県の図書館では、静かにしたい人が「サイレントルーム」を利用するところもあり、フロアは気軽な利用がされている。  
⇒ 日曜日の午前中は、子どもたちが騒いでも良い時間帯としている図書館もある。
- ◇ 東中野エリアは本町図書館、東中野図書館が閉館され空白地となっており、上鷺宮や中野駅西側も同様である。出来れば、中学校区に一つの図書館・図書ポイントがあると良いと思う。区民活動センターや中野区新庁舎なども活用できないか。  
中野東中学校と中野東図書館は併設施設であり、放課後、本の貸出では立ち寄れるが、閲覧席等の利用は帰宅後となっており、自宅が近隣にないと図書サービスの利用が困難になる。この辺は、学校の規制なのか、図書館の規制なのか。  
また、「最近の出来事」の中に、地域開放型学校図書館が当初計画で全小学校だったが、3校開設後停止となっているとあるが、理由は何か。  
⇒ 新しい中野をつくる 10 か年計画では、全小学校に整備となっていたが、改めて「20箇所」必要なのか、サービスが重複するのではないかなどの課題も踏まえ、既設置校の運営状況の検証とあわせ、検討会で議論していく。  
⇒ 放課後の立ち寄りも、他の学校も同様の取扱をしており、本の貸出の際に立ち寄れるという分中野東中学校は柔軟な対応と考える。
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で来館者が減少している。おはなし会にしても、以前は満員だったのが、3組までなどと制限がかかる。コロナ以前は、おはなし会の際にも子どもとふれあいがあったが、今は全く無くなっており、非常に残念に思っている。

◇ 中野東図書館の7階の子どもフロアは、備品も含め一体感があり、非常によくできていると感じている。

上鷺宮地域は、ずっと図書館がなく、練馬区の貫井図書館、杉並区の下井草図書館を利用している。両図書館とも使い勝手がよく、多くの人々が利用しているの、本を読みたい人は地域にたくさんいると考えている。

また、上鷺宮地域センターには図書スペースがあり、年間5万円の経費で運営されている。予約制度はないが、本の回転率が高く、有益なものとなっている。

練馬区の貫井図書館は、西武池袋線中村橋駅に近く、区立の美術館が併設されており、仕事帰り、買い物中に予約資料を受け取るなど、便利に利用している。杉並区立下井草図書館は商店街の外れの住宅地にあり、緑も多く楽しく感じられる。一方で、上鷺宮地域では土地の取得が難しいように思われる。

小さいうちから、ちょっと図書館に行く、親の本を借りるのについて行く、そういうことを通して図書館に馴染み、その後、勉強の場として図書館を使う。そういうことも考えると、昔と違って、滞在型利用の出来る図書館が望まれる。

◆ 鷺宮図書館は、薄暗く、閲覧席も少なく、本の回転も速くない。そのため、練馬区の貫井図書館に行ってしまう。建替は難しいかもしれないが、何か対策を考えてほしい。中学生・高校生の居場所がなく、鷺宮児童館も今年はあるが、今後は不明である。鷺宮・西中野の統合新校にキッズ・プラザができるといっている。

資料最後の半径1キロの図から見ると、鷺宮地区は図書館があることになるが、現状をみるとそう言ってよいのか。他と同質のサービスを受けているとは言えない。

⇒ 今年度も施設改修を行い、環境改善に努めるとともに、少し先になるが、鷺宮小学校跡地に図書サービスを含む複合施設の施設整備計画がある。

◇ 鷺宮図書館は、エレベーターの利用が前提で、かなり使い勝手が悪い。中野東図書館も7階~9階と聞き心配したが、小学生なども普通にエレベーターを使っており、心配するまでもなかった。

今後も、設備やサービスを充実させ、子どもたちが行きたいと思う図書館にしてほしい。

◆ 10年後はデジタル技術が当たり前になっていて、社会全体がデジタル空間となっていると思う。その中で人によってスキル差が生じることを踏まえ、スキルや欲しい情報にたどり着くためのアドバイスをする場となってほしい。

また、現状では電子書籍は価格面も含め様々課題があるが、公立図書館は相互に連携し、新たなモデルを作ってほしいとも思う。本の汚損トラブルが無くなる等、少なからずメリットはあると考えている。

中野東図書館も利用していて、色々と意欲をもって、いままでにない取り組みを行っているの、他の図書館にも波及して欲しい。

南台図書館は古いが、特集コーナーも好きだし、そのコーナーが来館する動機にもなっている。司書さんの手作り感があり、今後は、司書さん自身や区民が自分の好きな本を紹介するコーナーに繋がると嬉しい。また、中野区にゆかりがある著名人も巻き込んだ発信が出来ると、より多くの人々の関心が引けると思う。

◇ 中野東図書館は電車賃をかけ、子どもとイベントに参加し、駅周辺でご飯を食べる行ってみようと思える図書館だなと感じた。そういう生活に沿った使い方が出来るとうれしい。最寄りの南台図書館も、日常使いの出来る図書館ではあるが。

みなみのライブラリーができてとてもうれしかった。近くにある図書館として役立っており、いつまでも存在してほしい。利用者が少ないようで残念だ。

また、今まで子どもの本を自分のカードで借りていたが、今日初めて証明書が無くても、子どものカードが出来ることを知った。

◆ 利用者登録は、どの程度の割合？

⇒ 14~15%程度。

◇ 登録者が限定されており、現行利用者の使いやすさも大切だが、利用していない人に来てもらう図書館になる必要がある。今回は、その辺の考えも出してほしい。

サービスは図書館内だけではなく、アウトリーチもあり、例えば高齢者への本の宅配、イベントの外部実施による周知の向上、電子書籍も図書館に「いかない」サービスの一つ。ジャンルにかかわらず、こんなサービスがあったら図書館を使いたくなるというものを考えてもらいたい。

◆ 場所が身近で、素敵で、新しいことは良いことだが、図書館として何が出来るかを考えることも大切で、単なる自習室だけではなく、新しい情報技術に触れるなどもあり得る。箱物の視点で無く、どんな機能を地域で果たせるかという視点からの検討も必要だと考えている。